

富良野演劇工場運営委員会（令和元年度第1回）顛末

日時 令和元年8月6日（火） 午前11時～11時40分

場所 文化会館 第一会議室

出席者 委員：3名、代理1名、演劇工房：2名、事務局：3名

■ 天日委員長挨拶

山下部長挨拶

演劇工場伊東理事長挨拶

■ 富良野演劇工場運営委員会の設置目的

■ 委員及び市民協働課の移動について

安西課長：名簿については一部変更があったので報告します。

布部小中学校の校長が移動となり小林校長に変更となり、本日は代理として伊藤教諭が来ていただいている。

市民協働課は係長が移動により墓田となりました。

■ 報告事項 ～進行は天日委員長

（1）平成30年度富良野演劇工場指定管理について

指定管理については26年度～30年度までの管理である。

（2）平成30年度富良野演劇工場（指定管理分）収支決算について

（3）平成30年度ふらの演劇工房事業について（演劇工場開催分）

（4）富良野演劇工場 年度別利用状況

（5）富良野演劇工場 団体別利用 延に

施設の老朽化が激しく雨漏りが酷く修繕してきたが、来年度で一通り修繕が終わる予定。

今年度はプロセミアムスピーカーの修繕がある。

(平成 30 年度収支決算～団体利用日数について)

手持ちの資料を参照とし、太田工場長より説明。

太田事務局長：3年間数百万単位の赤字を抱えてきたが、昨年度は事業の見直しをして多少赤字は減りました。

30年度は補助金の事業は止め演劇工場本来の姿である、補助金申請は行わず運営を行った。

その結果約30万円程度の黒字でトントンであり、これで赤字であれば運営そのものを考え直さなければいけない。

事業報告について

北海道舞台塾ふらのについて、30年度見直しがされ補助金がついにカットされ、北海道舞台塾としOBユニットは最後の運営となった。

5市町村にご協力いただき、認められて皆様方に楽しんでいただけたと思う。30年度の優れた芸術活動をされた方の表彰に、私太田が受賞しました。

30年度は演劇工場で物を作っていくと言う事で、皆様方に貢献できたのではないかと考えております。

毎年行っている演劇リハビリテーションでは、寿光園で行っているが今年度は今のところ未定である。

利用状況について

昨年より減っている。公演で一昨年2ヶ月使っていた部分が減っていると言う事で減っているのが現状。

団体の利用については、学校利用(ワークショップ)が多くなっている。来年の5月～6月はもう空きが無いぐらい一杯となっている。

子ども達のコミュニケーション教育の一環となってる。

札幌・旭川等地方で声掛けが多くなっている。

理由は先生の転勤で、あそこで良かったからうちでもというのが多くなってきている。

■富良野演劇工場との意見交換

原田委員：学校の再編に伴う学校との関りはこれから変わっていくと思う。

山部中学校が統廃合で小学校しかなくなる。

安西課長：学校の再編があった場合、また関りも変わってくる。

太田工場長：来年はオリンピックの関係で体育の日の3連休が無くなり、演劇祭をどうするか。

文化庁との補助金関係がある。

安西課長：小中学校のコミュニケーションワークショップについて代理出席の伊藤先生は参加されているのか？

伊東先生：ない。

富良野1年目の教員が対象

富良野は演劇（コミュニケーション）が盛んで、ワークショップに参加する
と言う事は聞いている。

原田委員：富良野から活躍している、いわゆる俳優の道に進んでいる子どもたちはいる
のか？

工場長：俳優よりも声優とかを希望して富良野から出て行く子はいるが、まだ活躍し
ている子はいない。

安西課長：北海道舞台塾ふらのは、今年からは富良野沿線で協力し新たな形での舞台塾
として続けていくと言う事で進む事となる。

太田工場長：来年の新作を作っているので楽しみにしてほしい。

天日委員長：その他なければ終了します。